

国語	特に育成したい能力や態度 (具体的な数字や言葉で記載する) 2～3にしほる。	授業改善の視点と具体的な方策 (具体的に達成すべき数値目標を記載する) 左側のものとリンク【対応させる】	達成率【割合】 A…90%以上の児童 B…90～80%の児童 C…80～70%の児童 D…70%以下の児童
1年	<ul style="list-style-type: none"> 読み聞かせや読書、音読練習を通して、語彙を増やし、読解力を高める。 通年で書字に関する指導を行い、文字を丁寧に正しく書ける児童を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本に触れることへの抵抗をなくすために、読み聞かせや読書の記録を活用し、本に親しみ、語彙を増やすようにする。読書は、読み聞かせも含めて年間100冊をめざす。語彙を増やすために、教科書以外の音読に取り組み、暗唱できるぐらいまで、繰り返し音読する。 国語や書写の時間を中心自分鉛筆の持ち方を意識させ、正しい鉛筆の持ち方を指導する。学年末には、クラス全員が正しい鉛筆の持ち方ができ丁寧に字を書く意識がもてるようになる。 	<p>(成果) 本に親しみ、語彙を増やすことができた。音読を毎日行い、正しい読み方を理解することができた。</p> <p>(課題) 読解力を高めることが難しい。語彙を増やすと共に、情報を探し出したり、内容を要約したりする必要がある。</p>
2年	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の学習に慣れ、集中して取組む児童が多いが、文字の形が取りにくい、読み替えが理解できない児童もあり、漢字の定着率は、上位と下位に別れている。 読み聞かせや読書を楽しむことはできるが、登場人物の心情や様子を読み取ることのできない児童もいる。 作文など積極的に取組める児童もいるが、拗音、促音、長音、助詞、片仮名の表記が定着していない児童もいる。 スピーチや発表の声が小さい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 部首や似た漢字、読み方の違いに気づかせるように工夫する。朝学習や家庭学習でも繰り返し行う。 読み取りの時の語彙の力を増やすため、ことわざカルタや言葉に注目したスキルの学習をさせる。 作文は、書けたことを認め、嫌いにならないよう、書く機会を増やすことで文章を書けるようにしていく。 発表前にメモや練習をすることで、抵抗を減らし、自信をもって発表できるようにする。 	<p>【成果】 漢字の学習に慣れ、集中して取り組む児童が多くいる。ただ期間があくと忘れてしまうため、反復練習が必要。</p> <p>本を手に取って読む児童は4月当初よりも増えたが、読み取りはまだ苦手。作文などは拗音、促音、長音、助詞、片仮名の表記がだいぶ定着してきた。(達成率 C)</p> <p>【課題】 登場人物の心情や様子を読み取ることはできるが、文章化するのが難しいと感じる児童が多い。スピーチや発表の声が小さい。</p>

3年	<ul style="list-style-type: none"> ・文章から、考えの根拠となる文章を読み取る。 ・自分の考えをノートにまとめたり、発表したりする。 ・漢字・語彙の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な文章や大切な文章にサイドラインを引かせ、根拠となる文章を視覚的に捉えやすくする。 ・発表する時に、自分の考えと合わせて理由を発表することを習慣付ける。 ・話型や考えの手がかりとなるキーワードを板書で整理し、自分の考えを書いたりまとめたりする時間を設定する。また、その都度手本を示してそれを見ながら、正しく書く習慣を身に付けさせる。 ・毎日の家庭学習での漢字練習に加えて、毎回の授業で新出漢字の学習をする。 ・国語辞典を教室に常置し、意味調べの時間を設定し、調べる習慣を付ける。 	<p>(成果) 每日の漢字練習によって、3年生の新出漢字を身に付けることができた。 (B)</p> <p>(課題) 自分の考えを言語化することに課題がある。引き続きモデルや話型を示していく必要がある。</p>
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・中学年では、筋道をたてて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養ったり、自分の思いや考えをまとめることができるようにしていく。そのために、児童に自らの力で、文章を読み取ったり、筆者の考えを読み取ったりする力を育っていく。 ・説明的文章では、筆者の考えが文頭や文末にあることを知るとともに、その根拠となる部分が文章内でどこにあるかを自らの力で見つけられるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・説明的文章では児童が主体的に考えられるようにするために、図やグラフを提示し一目でわかるように授業の工夫を行う。また、導入を通して、児童に興味・関心を持つような配慮を行う。 ・筆者の意見や主張が文章内でどこに書いてあるか確認し、線を引いたり、友達と協力して意見や考えを共有したりするという深い学びにつながる授業を積極的に取り入れていく。 	<p>(成果) 児童が視覚的に捉えやすくするため、教材を工夫することで、読み取る力が向上した。(B)</p> <p>(課題) 自分の思いや考えをまとめることに慣れていないため、見本を提示しながら取り組ませた。継続的に指導が必要。(C)</p>
5年	<p>①自分の考えをもち、相手や目的に応じて、ノートやプリント書いたものを読んだり、話したりしてできる。</p> <p>②語彙力・読解力の向上を目指す。</p>	<p>①自分の考えはあるが、表現することが難しいと感じる児童と自分の考えがない児童とが混在する。表現することが難しい児童へは、まずは短い言葉で表現させ、文章で書けるようにしていく。また、話型を参考にして書かせる。考えがない児童に関しては、友達の発表を聞き自分も同じ意見だと感じた時には友達の真似をして書かせる。【達成率80%】</p> <p>②国語辞典を廊下に常置し、授業内で意味調べの時間をとる。</p> <p>②継続的に読書を推進し、文章を読むことに慣れ親しむようにする。</p> <p>②図や資料を本文と関連付けて、読解させていく。【達成率80%】</p>	<p>(成果) 話型を参考にして文を書くことができる児童が増えてきた。また、友達の発表を聞き自分も同じ意見だと感じた時には友達の真似をして書くこともできるようになってきた。</p> <p>(課題) 図や資料を本文と関連付けて読解したり、継続的に読書をしたりすることがまだまだ必要である。</p>

6年	<p>① 話す・聞く力を高め、すすんで話したり聞いたりできる児童を育成する。</p> <p>② 語彙を増やし、文章を書く場面や対話の場面に生かせるようにする。</p> <p>③ 自分の考えや思いを言葉に表し、伝える相手のことを考えながら表現しようとする力を育成する。</p>	<p>① 具体的な話し方や聞き方、話し合いの進め方のモデルを示す。自分の考えをもつ時間を確保し、児童の主体的な態度や取り組みを認め、よい点を褒め、全体に広げる。(達成率 80%)</p> <p>② 読書の時間を確保することや、意味調べ等、辞書を活用することを行い、語彙を増やす機会を作る。(達成率 80%)</p> <p>③ 自分の考えを記述する場面を多く設定し、教師の文章を参考にさせ、書くことに慣れさせる。意見文などの文章構成のパターンなどをつかませ、文末表現などを工夫するよう指導する。(達成率 70%)</p>	<p>(成果)三大阶段が足りないものの、話型等を用いることによってやや話し合いは活発になった。文章を書くこともかなりスムーズになってきたように思える。 達成率：B (課題)引き続き語彙を増やし、情緒をより細かく表現できるようになっていくことが必要。</p>
----	---	---	--